

癌を含むウイルス性疾患の 革新的な治療法の考察

一般社団法人
自然免疫医学研究所

癌を含むウイルス性疾患の革新的な治療法の考察

癌を含むウイルス性疾患の 革新的な治療法の考察

はじめに

私ども、自然免疫医学研究所（以下、研究所と呼びます）は主な研究目的として、西洋医療学に対し代替医療学（Alternative Medicine）等が謳っている、自然免疫治療＜人間が持ち備えている、自然治癒能力によって、疾患が治癒していく＞その免疫発生過程と、どのような事由でその能力が強く発揮されていくのか？免疫治療と予防の角度から、その可能性とメカニズム研究をしております。

今回は、癌・肝炎・腫瘍などの疾患症状が改善された、重篤な癌の患者が社会復帰するまでに回復したなどと、多くの方々から情報をいただいております、**生体酵素水**について研鑽してまいります。（以下、**本水**と呼びます）

研究所の前身が初めて、本水の薬事効果の情報を入手いたしましたのは、2011年に遡ります。当時、本水を東南アジアに紹介していた日本の商社駐在員の方から、「すごい薬事効

果の水がある」との情報は受けておりました。

タイ国の HIV 専門の病院で本水をエイズ患者に摂らせたところ、症状が向上または、患者のスクリーニング検査で陰性反応を示したと、その病院から驚きと感謝のお手紙を英文でしたが当時、拝見させていただきました。

インドネシアの病院では、本水を摂取した、多くの癌患者が奇跡的な回復をしたと、病院の院長様から、喜びと感謝の報告を頂きました。

これら海外の事例ですので、当時はそれほど真剣には受け止めませんでした。2015年、今度は日本国内から、研究所に本水の評判が入ってまいりました。

それら事例は、それが事実であれば、悪性腫瘍やウイルス対策に対して、実存する西洋医学の考え方を根本的に覆す、驚きの報告と治癒例でした。

報告された事例に研究所は大いなる興味を持ち、期待と興奮を持って、調査を始めました。

調査：研究所は開発者や製造元との面談、回復された癌患者様からの直接の聞き取り、PET/CT や X-ray 写真など治癒されていく過程や症状の変化、本水の摂取状況などのリサーチから始めました。

以下にその一部をご紹介します。

(本人より個人情報の開示許可も頂き、掲載写真は病院側の協力も得ております。)

元患者様から改善や完治の聞き取りがとれた疾病の種類 (一部)

<癌>

肝臓癌・乳癌・胃癌・大腸癌・肺癌・子宮頸癌・前立腺癌・皮膚癌

<その他>

脳腫瘍・B型C型(肝炎)・ピロリ菌除去・肝臓機能の回復、アレルギー症状

治癒例：

1：肺癌

都下のT市会議員議長の実兄が末期の肺がん。

本水を1回に100CC、空腹時に朝・昼・晩と3回、計300CCを摂取

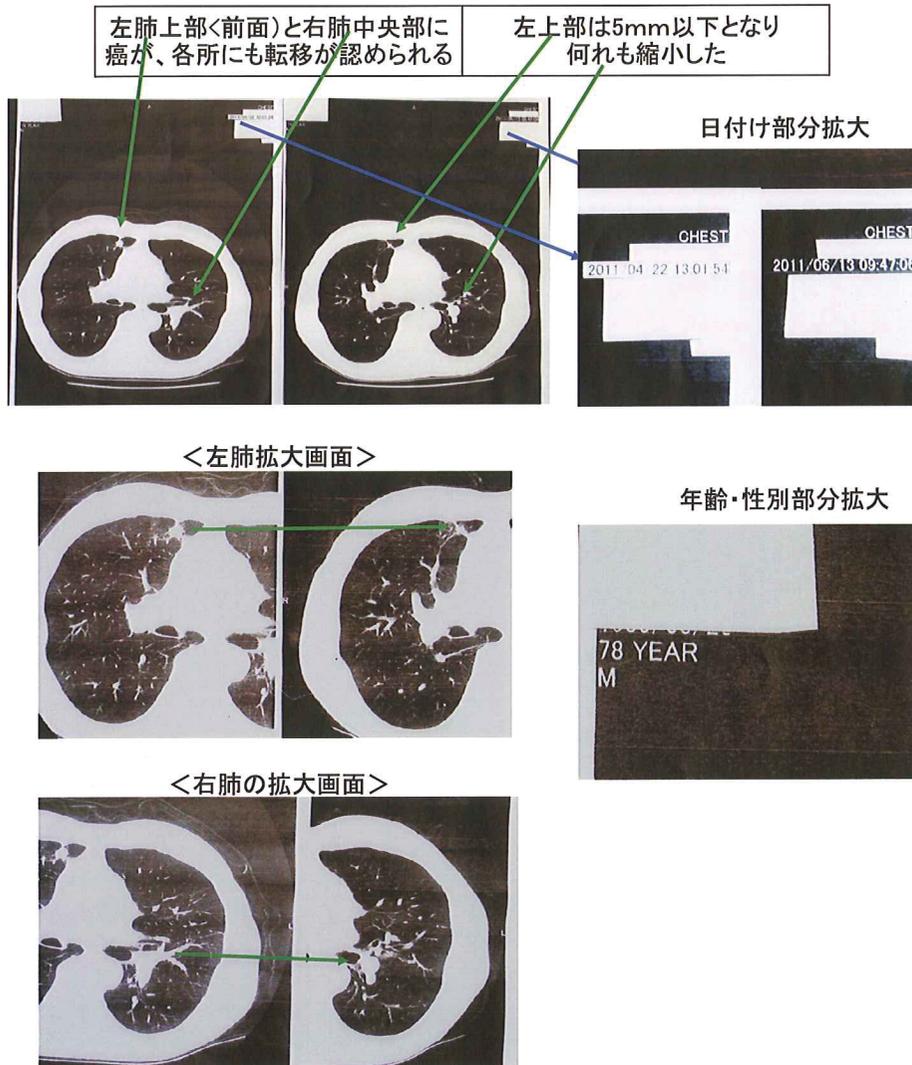
微量の本水を吸入器にて1日数回、適量を肺に霧状にて吸入。

結果：2ヶ月後肺癌部分が2ミリ以下になり、腫瘍マーカーが正常値になった。

その他、確認がとれた方10名以上が同様の過程で回復された改善または完治と医師から判断された。

■本水による肺がんの回復事例 1

<左側写真>から2ヶ月後<右側写真>へ回復



2：肺癌 79歳（女性）神奈川県在住

医師よりステージ3 B の進行性肺癌（胃癌のスキルス性に準じる危険度と診断）

完治不可と通告された。余命3カ月と宣告。

主治医より抗癌治療無き場合は、癌は急激に進行すると言われたが、患者は抗癌治療を拒否した。代わりに本水による治療を決意した。

本水を1回に100cc、空腹時に朝・昼・晩と3回、計300ccを摂取、本水を吸入器にて1日数回、適量を肺に霧状で直接吸入。

特殊カーボンシートを肺の癌部の上から、温熱パッチと共に患部に貼る。

結果：本水の治療を始めて3日後、夜間に連続して起こる咳が止まって、安眠が出来るようになる。治療を始めて2週間後の検査では依然として2週間前と同じ状態で癌が写る。

しかしながら、さらなる癌の進行は認めず、主治医は、なぜ進行が止まっているのか、理由は解らぬが、患者の意思を尊重して、抗癌治療の開始は様子を見ようということになった。

主治医の強い勧めで1度だけ抗がん剤の投与を受けた。

以降も本水による治療は続けられた。

その後、2週間経過、今度は癌の影が写真で薄くなり始めた。

更に、1ヶ月経過事の検査で、以前にあった、癌の中心部分が、小さい粒状に縮小し、他の癌の部分は、消滅した。

腫瘍マーカーなどは正常値に戻り、以降は経過観察、肺癌治療は今の状態では必要ないと言われた。

主治医は、このようなケースは今まで見たことは無いが、1度限りの投与であったが「抗がん剤が身体に合ったのだ」との結論で終わった。

■本水使用による肺がんの回復事例写真

以下は2015年12月24日のレントゲン写真（左側）と、その3ヶ月後の2016年3月24日（右側）のレントゲン写真の比較である。一見して大きな改善が見られる。



▲2015/12/24



▲2016/3/24



3：胃癌 64才（男性）福岡県

末期の胃癌で胃に2つの穴があり、チューブにて胃液を出している状態。

さらに、全身に癌の転移がみられた。

治療は、経口にて本水を飲むことが出来ないため、1日数回、家族が鼻から噴霧吸入を行う。

胃の穴のあいた部分に温熱パッチを特殊カーボンシートの上に重ね、患部を温めた。

結果：2 間後、胃の穴が塞がり、食物を摂れるようになった。そのため、本水を1 回に1 0 0 c c、空腹時に朝・昼・晩と3 回、計3 0 0 c cを摂取できるようになった。2 ヶ月で腫瘍マーカーが正常になり、退院した。

4：末期の肝臓癌患者

東海大学病院に入院して治療。(余談だが、自分の墓を購入し葬式の準備)

本水を1 回に1 0 0 c c、朝・昼・晩と3 回、計3 0 0 c cを摂取した。

温熱パッチを特殊カーボンシートの上に重ね、肌に直接、肝臓の癌部に貼り付ける。

結果：2 ヶ月で全快退院できた。

担当医師は何が原因で完治ができたか、理由が説明できなかった。

その他、4 名の肝臓癌の患者さんから、短期間で完治したと報告を受けた。

5：前立腺癌

上記4 (肝臓癌) と同じ治療方法で6 名が3 週間で全快している。

6：B 型肝炎

開発者の部下が、B 型肝炎のキャリアであったが開発現場で本水を飲料水の代わりに飲んでいたらところ肝炎ウイルスが消滅した。

その他、C 型肝炎2 名が全快した。

肝炎に関しては3～5 ヶ月で全快するという結果が出た。

7：子宮頸癌

群馬大学付属病院にて治療するが大量の出血が続き、末期症状のような状態であった。

本水を**子宮患部用に加工**して、タンポンに付着させて使用した。

同時に、本水を規定量摂取した。

結果：本水による治療開始後、1週間で出血が止まった。2ヶ月後には全快を見た。

念のため、セカンドオピニオン取得の結果、診断では癌は見つからなかった。

患者の依頼で弁護士立ち会いのもと、群馬医大のカルテを検証した結果、レベル4であったことが後日判明した。

8：皮膚癌

皮膚癌の患部に本水を直接スプレーした。

結果：2ヶ月で患部の改善が見られた。



▲治療前



▲治療後

9：乳癌 50代で北海道在住

乳癌から肺に転移し、病院からホスピスに移送され死期を迎える準備をしていた。

1日3回本水を摂取し、胸部リンパに温熱シートと特殊カーボンシートで加熱した。

結果：日本で初めてのホスピスからの生還者となり、美容室経営を再開した。

10：乳癌 40代長崎在住

肝臓転移 ステージIV エストロゲン受容体、プロゲステロン受容体、ヒト上皮成長因子受容体の3要素がいずれも発現していないトリプルネガティブ(小林麻央さんと同タイプ)で、予後6カ月と告知された。

低用量抗がん剤、温熱療法に加えて、一日3回100ccずつ本水を摂取。癌治療における副作用も微細で、4カ月後腫瘍マーカー正常化、肝臓転移も消失。原発の乳癌も縮小石灰化傾向にあり、ほぼ寛解となり、現在も本水を一日3回50ccずつに減量しながら摂取継続中。

11：※本水摂取と、既存抗癌治療の併用

既存の癌治療時に本水の併用摂取をすることで、副作用が軽減化した事があります。

おう吐感や疲労感が軽減され、楽に治療が受けられたとの報告が寄せられています。脱毛の副作用には効果が見られませんでした。

12：アトピー

改善はした。しかし、長時間が必用であることが判明。

13：ガンマー GTP が高い患者 鎌倉市在住 男性67歳

ガンマー GTP の数値が高く改善のために本水を摂取。

1日100ccを3回、計300ccを空腹時に10日間摂取

結果：数値が300から60（正常値範囲内）に改善。

14：水虫の治療

患部に本水と生体強アルカリの混合水を作り患部に塗付
さらに、脱脂綿に混合水を含ませ、テープで固定する。

※(注) 生体酵素水に生体強アルカリの貝殻有機粉末を混ぜる事

結果：市販薬のようなスプレー時のそう快感はないが、10日間で患部がきれいになり、以降の1年経過後も再発の兆候なし。

(※15：白血病)

白血病の事例に関しては、1例のみの事例です。また、1回限りの本人からの電話連絡で以降の追跡確認が取れておりませんが、効果があったのでは、という内容の報告でした。したがって、参考程度でお読みください。

「本水を飲み始めて2週間後の検査でヘモグロビン値が2倍に跳ね上がった。」

ヘモグロビンは赤血球に関連する物ですが、これが増えたと言う事は白血球サイドに良い変化があったのではないかと考えております。

おことわり：上記の症例は患者様が自己責任で自ら行った治療の結果です。

患者様の中に、本水の摂取による因果関係は証明出来ませんでしたが、まれに身体の不調をきたす方がおられました。そのような場合は、摂取を中止するか、摂取量を減らして処方いたしました。

番外：犬や猫の癌が完治または改善（本水を飲ませた）

幼豚の生存率の向上（飼料に含ませて与えた）

養魚の感染症の防止

乳牛のウイルス感染防止

養鶏のウイルス対策

今までの治療例をまとめた結果、癌治療におきましては、比較的短期間に改善が見られたケースと時間がかかったケースがあることが解りました。

肺癌等は2週間で癌の成長が止まるなど顕著な例も見られています。

比較的短時間で改善もしくは完治が確認できた癌。

肺癌・肝臓癌・膀胱癌・子宮頸癌

生体酵素水の高濃度タイプの摂取が効果を高めた癌：

特殊カーボンシートの使用が困難な癌や全身に転移している癌には、高濃度タイプがより有効であることが解りました。

例として、大腸癌などは大腸に本水が届けられる前に、多くの酵素が事前に臓器に吸収されてしまうため、高濃度タイプで大腸まで届かせることが重要です。

本水は1 c cの3, 400万個超の創生期の酵素体の核を有しておりますが、そのすべてが免疫のための化合運動をするわけではありません。

ステージの高い癌の場合は体内に1, 000億個を超える癌細胞が存在すると言われていています。

それらと、戦うには免疫酵素も数で勝負するべきと考えております。

共通治療過程

癌の種類に関係なく、本水摂取後2週間の検診結果では、癌の大きさや形状の形状に変化は見られないケースが多いです。

しかしながら、癌がそれ以上進行していないように思われま

す。癌自体の委縮や消滅が確認できた例は摂取後45日以降の例が多く、その時点で腫瘍マーカーが下がってくるケースが多く見られています。

癌細胞に侵された個所は、壊死した状態で殻だけ残って、中は死んでいても影が写ることがあります。それを確かめる方法はありません。

その場所の、進行活動は止まっているケースが多いようで、以降は時間の経過とともに、影が薄くなっていく場合があります。

生体酵素水の摂取方法について：

癌の患者さんに、生体酵素水を処方した医師からの摂取方法の聞き取りは概略以下のようでした。

ステージ2・3・4の癌の患者さんには、1日3回、各100ccの摂取処方。(原液そのまま)

ステージ1の癌患者さんには、1日2回 朝と夜、各100ccの摂取処方。(原液そのまま)

腫瘍マーカーが正常値に戻った、癌の活動が終息した患者さんには、1日2回 朝と夜に各50cc摂取処方。

以降安定期に入り、再発が不安な方・健康維持目的の方には、1日1回 朝に30～50cc(原液そのまま、体格に合わせて)の摂取をアドバイスしています。

摂取の時間帯

100cc摂取の場合は、朝は起きたらすぐ、胃の中が空の状態時に、昼は昼食前30分、夜は就寝前にそのまま、飲むように指導しております。

但し、水分を取りにくい患者さんもありますので、その場合は、数回に分けて、出来れば1日の総処方量に達するまで摂取をアドバイス。

希釈による摂取方法

50cc未満の摂取方法は、可能であればコップに原液生体酵素水を注ぎ、水道水加えて、2～3倍に希釈、100cc程度にして摂取することが望ましい。

* 100cc程度に希釈する場合は、お湯で希釈するのが、望ましい。

希釈後の温度は、50度程度でそれ以上にはしない事。

患者様には、積極的に温めて摂取させた。

* 水道水に代わり、水素水で希釈するほうが、一層の効果が期待できる。

良性の腫瘍と本水

本水は良性の腫瘍に対して効果は期待できません。

悪性の腫瘍（ウイルス性）等に対しては効果が多く認められました。

その理由に関しては、後記いたします。

次に、どのようなメカニズムで患者が処置不可能と言われた疾病から生還、社会復帰まで出来たか？

研究所のリサーチの結果を報告致します。

リサーチ：

まず、はじめに当然ですが、初期の主治医による診断に誤り

は無いのか？

X-ray や PET 機械の誤作動は無いのか？

などの、テクニカルミスを考察しましたが、あまりにも改善の臨床例が多いので、その可能性は除外することにしました。

今回は悪性腫瘍の治癒例を中心に考察してまいりますので、健全な身体に、なぜ、いわゆる癌細胞と呼ばれるものが生まれ、人体を蝕んでいくか、まずその因から研究してまいりましょう。

人間は生命維持のために呼吸し、飲料食物を摂るわけです。この呼吸と飲食物の摂取内容の考察無しで、原因は追求できないと考えました。

1：現代における疾病の原因

因：

近年、生活がますます、安易で便利になる一方、農耕作の簡素化（農薬・化学肥料）、出来た飲食物の長期保存や輸送のために、保存料、酸化防止剤など。

生産段階、流通段階で使用した農薬、化学添加物・保存剤など目には見えませんが、これらを含んだ食品を、毎日多く摂っていることとなります。

(内的要因)

それら、化学物質は応用化学の発達により、ここ約200年間に開発されたものです。

今、現代人は1人当たり1年間に4キログラム以上の化学物質や無機金属をさまざまな形で体内に摂りこんでいると言われています。

(外的要因)

呼吸時や喫煙時では、PM2.5に含まれる有害物質なども、肺に摂り込んでいます。

不思議に思うのは、西洋医学はますます研究され日進月歩でありながら、なぜ病気の種類が増え続けて、我々人類を苦しめているのでしょうか？

大きな原因の1つとして、上記の化学物質（新規も含む）の摂取の増大が否定できません。

最近では、米国を中心にオーガニック食品が注目を浴びて、健康志向の方々が高額にもかかわらず、それを求める需要が高まっているのは、消費者が化学物質を使用した食品摂取の危険性に気がついてきているからです。

昔の食品に含まれていない物質が、多くの現代の食品には含まれていることはご存知でしょうか？

つまり、化学物質や無機の金属・鉱物などです。

金属を摂取しているとは、意外だと思われるでしょう。

おなじみのマイナスイオン飲料にも含まれていることがあります。飲料内で沈殿しないほどの小さなサイズです。

摂取されたそれら極小さい金属物質は体外に排出することが難しく、体内に残留します。

マイナスイオン飲料、それ自体は身体に良い影響を与える事実は疑いません。

問題はその飲料をマイナスイオン状態にするために、さまざまな無機金属が触媒として使用され、それらが飲料内にナノサイズ状態で残留している場合があります。

(すべての健康飲料に含まれているという意味ではありません。)

果：

それらの極小さい金属は体内に残留、蓄積され、体内で酸化する可能性があります。

たとえば鉄が酸化して赤く、錆びていくように、体内で錆びが発生するのです。

この錆びが、人体の細胞に悪さを起こし、さまざまな疾患を起こす原因となっていくます。

体内の酸化を防止する目的で、摂取したそのアルカリ飲料が原因で身体内で酸化する恐れのある、金属物質を体内に取り込んでいるとは皮肉ですね。

(アルカリ飲料を摂取される時はその含有物に注意する事をおすすめします)

その他、食品に含まれる酸化防止剤（保存剤）にも注意が必要です。

同様の悪さを、体内で引き起こす可能性があります。

しかしながら、日本の法律ではそれらの使用許可が与えられているため、許容範囲内で使用することは合法です。(日本以外でも同じと考えます)

残念ですが、現代に生きる私たちはこの食品添加物や微粒子物質を完全に摂取せずに生活することは不可能です。

2：病気のメカニズム

病気の多くの要因の1つは人体の酸化によるものです。

酸化した部分から、癌や肝炎のウイルスの因をおこしていると、考えております。

本来であれば、酸化は体内で還元されるべき物なのです。

ただ、金属微粒子などの原因は、あまりにも小さいため体外排出が困難です。

身体の PH バランスについて：

身体の健康を維持するためには、体内の PH バランスを7～7.5 状態に保ち、健康な細胞を作っていくことが出来る状態にしておくことが重要です。

健康な細胞活動には、酸性・アルカリ性のどちらに傾いてもよろしくありません。健康な細胞を作り出す事が出来れば、皆さんが言われるエイジングケア効果が期待でき、いつまでも若々しく、健康な体ですごすことに、役立ちます。

超抗酸化水としての本水：

本水は PH が中性域でありながら、なぜアルカリ水なのでしょうか？

本水を理解するには、この特質を精査する必要があります。

本水は生体アルカリ反応を起こすことが出来ます。

本水を摂取しますと、体内で水酸基 (OH) と出会います。

本水に含まれる生体酵素核が OH を引きつけ、有機アルカリが生まれます。これで (-OH) が生まれ、体内が生体アルカリになるとの結論を付けました。

無機物を触媒にして製造したアルカリ水ではなく、体内の生体反応により身体がアルカリ状態を創る、理想の抗酸化コンデションになるのでしょうか。

本水の超抗酸化力を果物で試した結果、想像を超える抗酸化力が見られました。テストに先立ち、量販店からレモンライムを複数購入しました。テスト用レモンライムの表面についている WAX をよく水洗いして水分を拭き取り、片方に生体酵素水をスプレーして表面に全体にいきわたるように手で延ばし、そのまま、自然乾燥させました。

他方はそのまま、水洗いだけの未処理です。

両方とも常温にて、そのまま室内で保存しました。



◀テスト開始時

2ヶ月後、未処理のレモンライムは表面が、キウイのような色に変色し腐敗してしまいました。

本水で処理されたレモンライムの色は2ヶ月前と変わりませんでした。

ただ、ラップにて表面シールを施さなかったため、水分が蒸発して、若干サイズが小さくなったような感がありました。



◀60日後の比較 外観

さらに、2週間後レモンライムをナイフで半分に割り、中の状態を確認しました。

結果は、写真の通り、未処理のレモンライムは内部も完全に腐っていました。

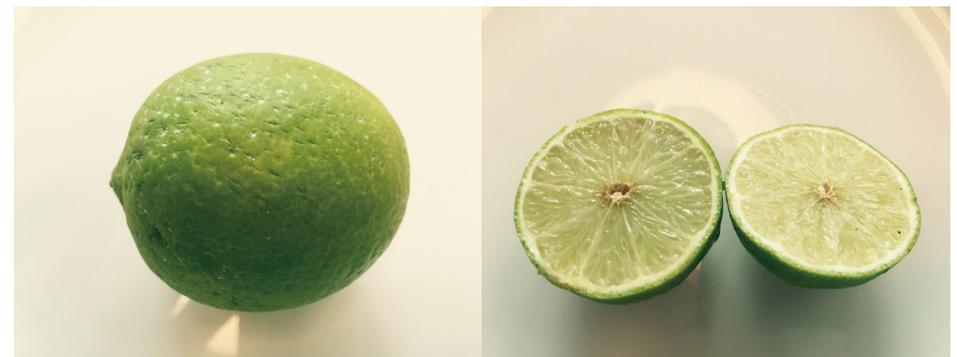
一方、生体酵素水にて処理されたレモンライムは、若干の変色は認められましたが、味は変わらず問題無く摂取できま

した。



◀75日後の比較 中身

※参考として：本水にて処理後、ラップにてシールして冷蔵庫で保存したレモンライムサンプル体は、乾燥も防げたため、サイズも色さらに果肉も80日前の状態と全く変わっていませんでした。



▲80日後の比較 ラップシール保存 外観と中身

このテストで確認できたことは、本水の超抗酸化力は、色々な原因で起きる体内腐食を予防してくれる力があるという事です。この腐食が様々な疾病の因になると考えられております。体内がこのように腐食したら恐ろしいですね。

デトックス効果：

本水には体内蓄積の重金属デトックスの効果があります。

詳しくは、本書の後の部分で紹介してありますが、体内に摂取された後、そのサイズがナノクラスまで小さいために、身体組織の中に入り込んでしまい、排出不可能とされていた、微小の金属、鉱物類も、E. E核が引き寄せ、絡め取り体外排出を可能としました。

いわゆる、無機有害金属の体外へのデトックスです。

体内抗酸化力テスト：

抗酸化物質と言われるサプリメントは数多くありますが、それを摂取した後に身体の抗酸化が証明された例は殆どなく、連続的に摂取した後にどれほどの時間が必要なのかなどの検証テストもされておられません。

本、小冊子の編集中に、生体酵素水を摂取した直後から、体内の抗酸化状態のレベルアップが確認されたとの、報告が民間の研究機関から届きました。

本小冊子の、第1刷の締め切りの時間的な都合で、本研究所にて、精度の高い計測機器を用いての実証試験を行う、時間がありませんでした。

2018年4月に、その体内抗酸化実証テストを医師により行います。

仮に、それが実証されれば、世界で類の見ない、摂取直後からの抗酸化状態に身体を保てる、理想の生体酵素水になります。

非常に興味のある検証となりますので、本紙、第2刷目には、内容の一部にそのデータをつけ加えて、開示いたします。

本水と免疫機能：

免疫機能とは何か？

免疫機能をあげるには何が必要か？

巷で免疫力に関する所説は証明出来るエビデンスが不足しております。研究所が生体酵素水または永遠の水の内容成分を

研究して、免疫機能と本水の機能に関して以下のように考えております。

研究所が出した結論も100%物証で証明できない仮説ではありますが、本水の含有成分や体内化合過程などから考え、免疫力のメカニズムに関して、事実に近い結論が出せたと確信しております。

免疫機能（行為）

研究所が考える免疫機能とは、本水に含有する原始状の酵素（以下、エレメンタリーエンザイム E.E と呼びます）が、体内に摂りこまれ、アミノ酸を合成し、たんぱく質を合成し、多糖類を合成し、細胞に辿りつかせる行為の中で起こりうる機能（行為）をいいます。

別の言い方では、この細胞に辿りつくまでの過程において、無数の化合を繰り返します。

この、化合行為中に多様な抗原が侵入してきても、細胞に至るまでの、化合能力、すなわち各種の塩基類のエレクトロン

に取り込まれ、有害な抗原も、多糖類の一部に取り込まれ変化していきます。化合の過程でその材料の一部になってしまいます。

「一言で言えば、悪いウイルスが身体に有意義なアミノ酸に変化してしまう。」

と言う表現が解りやすいと思います。

今の医学において、癌治療で注目されている T 細胞と呼ばれている酵素が癌細胞を食しているように見える映像などが公開されています。

それに対する、研究所の考え方は、T 細胞が癌細胞を化合して大きくなり、大きな化合能力をもったキラー細胞になっていくと、理解するべきです。

T 細胞が抗原に抗体を作っているのではなく、酵素の化合行為こそが、免疫行為と考えます。つまり、本水摂取はキラー細胞の卵の摂取と考えております。

本水が含有する酵素の特異性：

本水に含まれる酵素の元になる物が E.E です。

この E.E は生命体ではありませんが、有機質です。

原材料は豆類を使用しているため、植物由来であり、前項で懸念を示した金属イオンを触媒として使用しないで、超抗酸化状態を作り出せる物質です。

軟水を使用することで莫大な数の E.E を生み出せます。

この E.E の核個体サイズは桁違いに小さい（ナノ）です。

この極めて小さな酵素は器官から体内のあらゆるところに取り込まれ運ばれます。

この酵素体が体内の酸化物に出会うと、酸化物を還元する力を持っています。

悪性ウイルスに出会うと、化合成長のため酵素の一部に取りこんでしまいます。

今まで治療困難とされてきた、HIV の極小さいウイルスにも、本酵素体はそれ以下のサイズであるため、接触することが出来、HIV ウイルスを取り込み、アミノ酸化することが可能になったと考えております。

(HIV の治癒例は過去タイ国からの臨床報告のみです、したがって研究所では直接の確認が取れておりません。十分に可能性はありますが、現段階では仮説です。)

酵素の化合で免疫機能を維持するため、癌を完治された患者さんが、本水を少量でも定期的に飲み続ける事により、再発の防止に役に立つという、研究はされております。

酵素治療例として、興味のある事例を2つ紹介します。

骨そしょう症で車いす生活であった女性が、車いす無しで歩けるようになった事例があります。

他に、膝が痛くて歩行に支障のある87歳の女性が本水を摂り始めて2ヶ月後、坂道を休まずに登れるようになったと、本人から直接報告受けています。

これは、酵素化合のオリジナルな働きにより、骨や関節が再生強化されたと前者は開発者、後者は研究所の実証例です。

酵素に関する結論：

市場には、酵素健康食品が氾濫しております。

酵素そのものを摂られることは健康に有効であるとは確かです。

重要な事は完成した酵素を摂るのではなく、創生期酵素の元（核酵素）の摂取をする事です。

つまり、これから体内で化合を繰り返す能力を持つ過程の、限りなく創造のはじめに近い生まれたばかりの状態である赤ちゃん酵素の摂取が重要です。

自らの体内で酵素を絶え間なく化合成長させる事が、強い免疫機能を生み出すのです。

酵素化合運動は免疫力の重要な要件です。

この、赤ちゃん酵素の体内生育が必要です。

莫大な数の若い酵素が必要です。

前述も致しましたが、癌の進行とともに癌細胞の数は激増します。

これに対抗する酵素による免疫療法では、摂取する酵素は莫大な数が必要です。

本水に含まれる莫大な数の E.E の全方位型エレクトロンが可能にしたと考えております。

10代20代をピークに酵素の体内量は徐々に少なくなり、60歳代では5分の1まで、減少すると言われております。年を重ねると免疫力が下がり、成人病などが増えてくることは、理解できますね。

E.E について：

次に本水のパワーの源である、E.E（免疫機能向上に必要な酵素の素）について少し細かく説明いたします。

E.E はエンザエム（酵素）という名称を使っておりますが、私たちが考える酵素と呼ぶには少し早いようです。

E.E は

- 1：有機物です。
 - 2：生命体ではありません。
 - 3：全方位型のエレクトロンを持っています。
 - 4：これから生長する生命体の一部にとりこまれます。
- え？「これでも酵素？」と、思われるでしょうがこれが E.E の持つ特質の一部です。

この E.E の、原料は豆類ですが、E.E を地球上の平常環境で

は作ることができません。

宇宙空間で一定の温度を加えますと製造が可能です。

開発者は E.E を作りだすことに成功、E.E の存在に世界特許が与えられており、存在が実証されております。

E.E の無機極小金属（鉍物）体外排出機能について：

本水は、免疫機能のほかに、体内に蓄積し、酸化の元となるナノサイズの金属微粒子を寄せ集め、サイズを大きくすることで体外に排出出来るようにする機能もあるようです。

これについては、もう少し検証が必要ですが、おそらく全方位型から引きつける、エレクトロンが作用しているのではないかと考えております。

これにより、ナトリウム、マグネシウム、アルミニウム、銀イオンなど超微粒物質も体内で集められ、サイズが大きくなることで、体外排出が可能になります。

吸引療法・温熱療法について：

さまざまな癌の患者さんが本水の摂取の他、吸引療法と温熱療法の併用で症状の改善をみたとは前述しました。

以下では、その2つの療法が如何に症状改善に関与したかの考察です。

吸引療法について：

口・鼻から、本水を霧状で吸引して患部を直接攻撃する療法です。

ネブライザー（市販）とも呼ばれている、噴霧発生呼吸機で本水を霧状態で肺の癌部付近に直接送りこみます。

経口で身体全体に本水を行き渡し、さらに酵素を患部にも届かせることは、癌をこれ以上、ほかの部位に転移させない為の目的で非常に重要な事です。

しかし、肺癌のように侵された患部に直接、本水を届け攻撃する事が出来る場合はネブライザー治療の併用は非常に有効な結果が出ています。

アトピーや皮膚癌などは霧状ではなく、直接塗布して治療しました、時間はかかりましたが効果が出ました。

温熱療法について：

癌化している臓器の場所が解る場合、この温熱療法は非常に効果がありました。

これは、熱により直接に癌細胞を死滅させる療法です。

そのメカニズムは非常に興味があります。

温熱シート（市販）で最高温度（必ず60度以上の最大発熱機能があるもの）に特殊カーボンシートを貼りつけ、患部の付近に直接皮膚に貼り付けます。

特殊カーボンシートを熱が通りますと、温熱パッチから出る熱が、 $7\mu\text{m} - 20\mu\text{m}$ の遠赤外線の変換されます。

この波長は非常にユニークで、有機物は温めませんが、無機物は温めるという特徴を持っています。

身体内の癌化している部分は無機質または無機質になり始めております。

つまり、皮膚の上から熱を加えても皮膚や健康な筋肉は温めず、骨や癌化している無機質の部分を45度以上で温めます。

この温度では癌細胞の存続は難しく、死滅します。

レーザーで癌を攻撃するより安全で容易です。

※簡単なテスト方法はステーキ用の生肉の中心に包丁で切りこみを入れて、コインなど無機質な異物を挟みます。

そして、生肉の上から特殊カーボンシートを通過させた遠赤外線を照射すると、生肉の部分（有機物）は温まりませんが、コインの部分（無機質の部分）は熱を持ち始めます。ただし、コインの熱によりその周辺の生肉は中から温まります。

（参考：本来、特殊カーボンシートは高温熱パッチ（市販品）と組み合わせて、身体の芯から温めて肩こりや血流促進で身体の冷え予防に効果が出るようにと開発しました。温泉で気持ちよく、温まる感じがあります。

生体酵素水（E.E水）の特徴：

私たちに必要な酵素は、与えられた酵素を摂る時代から自分で作る時代になります。

人間は、個人個人でその時点で必要される酵素はすべて違います。

酵素の種類は13000種以上とあると言われています。

体内で絶え間なく、行われている生体反応は人間が生きていくためには欠かすことができません。

酵素は特異性があり、1つの反応には決まった酵素しか対応できません。

ですから、100種の完成した酵素を含むサプリであっても、どれだけ個人が本当に必要とされる酵素を摂取できているでしょうか？

本水は摂取した瞬間（体内に取り入れられた）から、その個人に必要な酵素を体内で生育出来るとされる、サプリドリンクと言えます。

年齢と共に体内で生育出来る酵素の数や種類は減少し代謝に抑制をかけてしまいます。

これは、老化促進の原因として重要な事実の1つです。

そこで、体内で酵素を生産、増やすことが出来る、創生期の

酵素体を摂取すれば良いと考えました。

本水には、創生期の酵素が100ccに30～100万個含まれております。

本水は摂取した瞬間から、体内の有機物（唾液、消化液、体内菌、バクテリア、ウイルス）に接すると、瞬時にそれらの有機物の形態をアミノ酸類にする力を持っています。

やがて、それは多糖類に変化し、個人・個人が別個に必要なとする酵素に成長すると考えられております。

この、**生体酵素摂取**のメカニズムは今まで、発見されませんでした。

<必要な酵素は自分で作る事が可能なのです>

簡単な体感テストを紹介いたします。

一般醤油を小皿に取り、数滴の本水を入れ、よくかき回して下さい。

30秒後には、醤油に旨味が発生します。

これは、醤油に含まれる有機物が本水に出会い、瞬時にその姿をアミノ酸化するためです。

アミノ酸系の調味料を入れた状態と同じです。

これが、本水の摂取した瞬間に体内で起こる反応です。

本水は合成されたアミノ酸サプリではありません、皆さん個人個人が必用に応じて体内で生産することが出来る、

100%ナチュラルかつ究極のオリジナルなアミノ酸となり、必要な部位に優先的に酵素として使われバランスの良い安定した代謝に大いに貢献するのです。

まとめ：

本水は医療用に開発された水ではありません。

生体酵素飲料です。

また、果物などの長期保存剤、植物の生育促進剤としても安心して使用できると製造元から説明を受けております。

原材料は熱加工された豆類と飲料用軟水以外は何も添加されていませんが、特殊な製造過程で生産された本水は世界でも

例の無いDNAであり、これに対しての論文はまだありません。

治療効果の観点から考えるに、豆類を加工することで、なぜこのような免疫力を向上させるメカニズムが生まれるのか？

さまざまな悪性疾患に対して有効な働きをするか？

研究所のリサーチはまだまだ、初歩段階です。

また、本文では未発表ですが、**本水はエイジングケアを超えた、若返りの効果がある**可能性が秘められております。同時に研鑽中であります。

今回、論じさせて頂いた内容の中には、物理的証明が出来ない部分（仮説）もあります。

今後は仮説が証明されるように、研究所として、より一層の研鑽を深めていきたいと努力してまいります。

最後に：

本水を使用しながら、亡くなってしまった癌患者さんも残念ながらおられます。

余命数カ月と担当医師から宣告されたステージが高い患者さんがほとんどでした。

しかしながら、ホスピスや最終末期癌から生還できた患者さんも多数おられます。

幸・不幸でかたづけられる問題ではありませんが、この差がいずれから生ずるかは、まだ研鑽の中にあります。

癌治療は、「体力勝負」と言われるように、身体は免疫機能で病を乗り越えようとがんばるわけですが、自然免疫力機能が発揮される前に、機能不全で亡くられる方が殆どです。体力のある、癌の早期発見時点からはじめる自然免疫療法がより有効です。

また、癌を乗り越えられた方も、本水の定期的な摂取は再発防止に貢献すると思います。

西洋医学療法と本水の自然免疫療法は、その療法メソッドが違いますので、併用治療には支障がありませんでした。

癌は、日本人が一生のうち2人に1人が患うと言われております。このような生体酵素水類が、副作用の無い安全・安価な癌治療薬として、将来広く世界に認められる日が来る事を願っております。

本書の制作にあたり、各医療機関様、治癒過程を開示していただいた方々に深く感謝申し上げます。

皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

■本書に関するホームページ

<http://meneki-igaku.org>

癌を含むウイルス性疾患の革新的な治療法の考察

2018年1月9日 改訂版第一刷発行

著 者 …………… 一般社団法人 自然免疫医学研究所
理事長：濱岡昭博
国立佐賀医科大学卒業
医師・医学博士

発 行 者 …………… 濱岡昭博

発 行 所 …………… 一般社団法人 自然免疫医学研究所

落丁本、乱丁本はお取り替えいたします。

定価：500円（税抜き）